

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	重症心身障害児型放課後等デイサービスはびりす		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 1日		～ 令和8年 2月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 1日		～ 令和8年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	常勤で言語聴覚士が在籍しており、管理者も理学療法士資格を有していることで、リハビリテーションの要素を含む療育を実施できていること。どちらも小児リハビリテーション施設での経験が豊富であること。	療育活動のなかにリハビリ的要素を取り入れていくことと共に、個別リハビリも実施している。	専門職からの視点、支援方法を他職種にも伝達することで内容や目的を共有している。 加えて、作業療法士の採用も検討中。
2	利用児童のなかには、医療的ケア児が多く、丁寧な医療的ケアができる体制が整っている。	医療的ケアが多い児童や複数名利用時は、看護職員も複数配置することで、より安全にケアを行うと共に、従業員も安心して業務を遂行することができている。	今後は、常時2名以上の看護職員を配置できるよう調整を行っている。また、医療的ケアの研修への参加や他職種のスタッフも医療的ケアの知識を学ぶことで協力的に業務を遂行できるよう意識している。
3	基本的には、利用児童数と同じかそれ以上の人員配置を行うことで手厚い支援を心掛けている。	利用児それぞれの特性や状態に配慮した環境設定やレベル設定をすることで楽しく活動を行えるよう工夫している。	積極的に外部研修等への参加を進め、療育の質の向上を目指していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	療育知識や技術の乏しさはあるものの、子ども1人ひとりとしっかり向き合う環境を作り、知識・技術の習得を進めている。	重症心身障害児に対する療育研修機会が少なく、研修への参加が積極的にはおこなえていない。	放課後等デイサービス経験が浅いスタッフがほとんどだからこそ、職員一丸となって日々の療育に全力で取り組むこと、より良い事業所を創り上げていくことを目標として共有できている。研修の対象の幅を広げ、様々な観点から療育に携われるよう人材育成を行う。
2			
3			